



地球・宇宙・いのち

司祭館の窓から夜空を見上げてみる。

今年はじめのテレビ番組で月の地平線からのぼる地球の映像を見た。昨年九月に打ち上げられた日本の月周回衛星「かぐや」から送られてきた映像である。三十八万キロのかなたから見る青い地球。それは美しいとしかいいようのない生きた惑星だった。わたしたちが知っているかぎり、青い生きた惑星は広大な宇宙で地球しかない。人間は生きてせいぜい一〇〇年。しかしこの地球は四十五億年も生き続けている。四十五億年かけて成長し、今の地球になったのだ。

この地球で命が生まれ、そして人が生まれた。ヒトの歴史は



六〇〇万年とも七〇〇万年ともいわれているが、それは突如として生まれたのではない。綿々と

と続く命の繋がりにから生まれたもので、その途中の過程がひとつでも途切れたのであれば「今」はない。

神の創造の業はわたしたちの想像をはるかに超えており、そのようなことを人が真似ることはもちろんできない。神の創造の業は今でも時の流れの中で続いている。

環境問題がとりざたされている。人間の命を守るといふことは、地球・宇宙の命を守るといふことであり、神の創造の業に参与することになる。人間の存在の意義はまさにここにある。神はこの宇宙を創造し、それを人間に与え、それを「支配」することに よって 幸せになるよう



やまもと まこと 山元 眞 神父

にまかせられた。「支配」は自分勝手に振る舞うことではなくこのすばらしい命の繋がりを保ち続けることである。

今、人は自己中心的存在となり、このすばらしい宇宙に「置かれた」ことを忘れていく。自分の利己的な欲求を満たすことだけを考えて自分勝手に生きている。自分はこの宇宙の中ではほんの一点にもならない存在なのに。しかし、その一点でも、それが少しでも集まればこの宇宙を滅ぼすことができるのである。今は、まさにこの滅びの寸前であることを知らなければならぬ。

この地球上のさまざまな悪や災害を神のせいにする人がいる。

また、神の人間への罰として捉える人がいる。が、それは間違いであろう。気の遠くなるような時間をかけてできた宇宙のそして地球のバランスを人が崩しているせいなのだ。傷つけられた地球はみずから地球を守ろうとしている。今まで経験したことのない災害などは地球が自分を守ろうとして起こっていることだとわたしは捉えている。

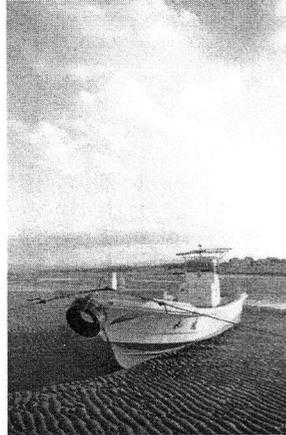
人類は知恵を重ねてきた。賢くなってきた。さまざまな知識もつようになってきた。その知恵は世界が幸せになるようにと神から与えられた恵みである。その知恵を生かさねばならない。滅びのための道具としてはならない。

国連のユネスコは二〇〇一年から二〇一〇年までを「世界の子どもたちのための平和と非暴力の文化国際一〇年」とし、子どもたちとともに暴力と戦争の文化を転換していこうと呼びかけた。そして世界のノーベル平和賞受賞者たちが「わたしの平和宣言」を作成し、世界の賛同を呼びかけた。このようなすば

らしいことも、いつの間にか忘れ去られている。せめて思い出し、平和をつくる決意を新たにしたい…。

《わたしの平和宣言》

わたしは、家でも、学校でもつぎの六つのことを心がけ、行動します。



1 「すべての人の生命を大切にします」

わたしは、生まれた国や皮膚の色、男女の違いにかかわらず、すべての人の生命を大切にし、人権を守ります。

2 「いじめや暴力をなくします」

わたしは自分の思いどおりにするために、言葉や力で弱い立場の人をいじめたり、暴力をふるったりしません。

3 「思いやりの心を持ち、助け

あいます」

わたしはボランティア活動などをとおして助けあいや思いやりの心を学び、自分の時間や持ち物を人のためにも使います。

4 「あいての身になって考えます」

わたしは、あいての話をよく聞き、あいての身になって考えます。そして、問題がおこったら話しあいで解決します。

5 「かけがえのない地球環境を守ります」

わたしは、かけがえのない地球を守るために物を大切に地球の生き物たちがなかくいっしょに暮らせるいい環境をつくります。

6 「みんなで力をあわせませ

わたしは、平和な世界をつくるために、いろんな人となかよくし、みんなで力をあわせます。そのために、いま、ここで、できることから始めます。(日本ユネスコ協会連盟 訳・子ども版)

【ブログ】

<http://micheleyam.exblog.jp>

ライサという名の妻

高橋たか子 著
四六判・304頁・2,310円(税込)

女子パウロ会

東京都港区赤坂8-12-42
TEL.03-3479-3943 FAX.03-3479-3944



ライサという名の妻

高橋たか子

20世紀の思想界に清澄な感動を与え通り過ぎていった熱愛の男女、哲学者ジャック・マリタンと妻ライサ。二人の著作と多くの芸術家・学者等の手紙や記録から紡ぎ出されたライサ——豊穡な知的・霊的交流の中心、魂であった美しい女性——の伝記。

20世紀の思想界に清澄な感動を与え通り過ぎていった熱愛の男女、哲学者ジャック・マリタンと妻ライサ。二人の著作と多くの芸術家・学者等の手紙や記録から紡ぎ出されたライサ——豊穡な知的・霊的交流の中心、魂であった美しい女性——の伝記。